

## 「コロナ禍 差別顕在化」

### 水俣市 学園大准教授が講演

熊本学園大の水俣学研究センターの公開講座が26日夜、水俣市であり、社会福祉学部の矢野治世美准教授が「感染症と人権」をテーマに講演した。新型コロナウイルス感染者やワクチン未接種者が差別を受けた事例を挙げ、「コロナ禍で社会に元からあった差別が拡大し、顕在化した」と指摘した。

矢野氏の専門は被差別部落の歴史研究。コロナ禍でみられる差別の類型として、誹謗中傷やデマといった個人間の「私的差別」、公的給付など政策で特定の業種を不平等に排除する「公的差別」、ワクチン接種などで社会的弱者への配慮を欠いた「構造的差別」の三つを紹介した。その上で「私的差別は条



熊本学園大水俣学研究センターの講座で講演する矢野治世美准教授＝26日、水俣市

例で禁じる自治体が増えるなど解消に向けた取り組みが進んだが、公的差別と構造的差別は気付きにくいものも多く、実態を把

握する必要がある」と訴えた。公開講座は18期目で、今年は「新型コロナウイルスに翻弄される暮らしと社会」をテーマ

マに全5回企画。最終回のこの日はオンラインを含め約40人が参加した。

(山本文子)